一講和條約
一別約
一議定書
一追加休戰定約
一御批准書

右謹テ上奏シ恭シク
聖裁ヲ仰キ併セテ樞密院ノ議ニ付
セラレンコトヲ請フ

明治廿八年五月十日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

講和條約

並附屬諸條約

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ媾和條約ヲ訂結スル為ノニ大日本國皇帝陛下ハ内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文外務大臣從二位勲一等子爵陸奥宗光ヲ大清國皇帝陛下ハ太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章二品頂戴前出使大臣李經方ヲ各其ノ全權大臣ニ任命セリ因テ各全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認ノ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條

清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認スル因テ右獨立自主ヲ損害スヘキ朝鮮國ヨリ清國ヘ對スル

貢獻致程等ハ將来会ノ之ヲ廢止スヘシ

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在ル城壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス

一 左ノ經界内ニ在ル奉天省南部ノ地

鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城海城營口ニ至リ遼河口ニ至ル折線以南ノ地併セテ前記ノ各城市ヲ包含スル而シテ遼河ヲ以テ界トスル處ハ該河ノ中央ヲ以テ經界トスルコトヲ知ルヘシ

遼東灣東岸及黄海北岸ニ在テ奉天省ニ屬スル諸島嶼

二 臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼

三 澎湖列島即英國グリーンウイッチ東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至三十四度ノ間ニ在ル諸島嶼

第三條

前條ニ掲載シ附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ本約批准交換後直ニ日清兩國ヨリ各二名以上ノ境界共同劃定委員ヲ任命シ實地ニ就テ確定スル所アルヘキモノトス而シテ其本約ニ掲記スル所ノ境界ニシテ地形上又ハ施政上ノ點ニ付完全ナラサルニ於テハ該境界劃定委員ハ之ヲ更正スルコトニ任スヘシ

該境界劃定委員ハ成ルヘク速ニ其ノ任務ニ從事シ其ノ任命後一箇年以内ニ之ヲ終了スヘシ

但シ該境界劃定委員ニ於テ更定スル所アルニ當リテ其ノ更定シタル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ可認スル迄ハ本

約ニ掲記スル所ノ經界線ヲ維持スヘシ

第四條

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀貳億兩ヲ日本國ヘ支拂フヘキコトヲ約ス右金額ハ都合八回ニ分カチ初回及次回ニハ毎回五千萬兩ヲ支拂フヘシ而シテ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六個月以内次回ノ拂込ハ本約批准交換後十二個月以内ニ於テスヘシ殘リノ金額ハ六個年賦ヒ分チ其ノ第一次ハ本約批准交換後二個年以内ニ其ノ第二次ハ本約批准交換後三個年以内ニ其ノ第三次ハ本約批准交換後四個年以内ニ其ノ第四次ハ本約批准交換後五個年以内ニ其ノ第五次ハ本約批准交換後六個年以内ニ其ノ第六次ハ本約批准交換後七個年以内ニ支拂フヘシ又初回拂込ノ期日ヨリ以後未タ拂込ヲワラサル額ニ對シテハ毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フヘキモノトス

但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ全額或ハ其ノ幾分ヲ前以テ一時ニ支拂フコトヲ得ヘシ如シ本約批准交換後三個年以内ニ該賠償金ノ總額ヲ皆濟スルトキハ總テ利子ヲ免除スヘシ若夫迄ニ二個年半若ハ更ニ短期ノ利子ヲ拂込ミタルモノアルトキハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第五條

日本國ヘ割與セラレタル地方住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ自由ニ其ノ所有不動産ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ヘシ其ノ為メ本約批准交換ノ日ヨリ二個年ヲ猶豫スヘシ但シ右年限ノ滿チタルトキハ未タ該地方ヲ去ラサル住民ヲ日本國ノ都合ニ因リ日本國臣民ト視為スコトアルヘシ

日清両国政府ハ本約批准交換後直チニ各一名以上ノ委員ヲ臺灣省ヘ派遣シ該省ノ受渡ヲ為スヘシ而シテ本約批准交換後二個月以内ニ右受渡ヲ完了スヘシ

第六條

日清両国間ノ一切ノ條約ハ交戦ノ為メ消滅シタルトキハ清国ハ本約批准交換ノ後速ニ全権委員ヲ任命シ日本国全権委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ関スル約定ヲ締結スヘキコトヲ約スルモノトス而シテ現ニ清国ト欧洲各国トノ間ニ存在スル諸條約章程ニ以テ該日清両国間諸條約ノ基礎ト為スヘシ又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ実施ニ至ル迄ハ清国ハ日本国政府官吏、商業、航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ総テ最恵国待遇ヲ與ヘシ

清国ハ右ノ外左ノ譲與ヲ為シ而シテ該譲與ハ本約調印ノ日ヨリ六箇月ノ後有效ノモノトス

第一清国ニ於テ現ニ各外国ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ日本国臣民ノ商業住居工業及製造業ノ為メニ左ノ市港ヲ開クヘシ但シ現ニ清国ノ開市場ニ行ハルヽ所ト同一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益ヲ享有スヘキモノトス

一 湖北省ノ荊州府沙市

二 四川省重慶府

三 江蘇省蘇州府

四 浙江省杭州府

日本国政府ハ以上列記スル所ノ市港中何レノ所ニ領事官ヲ置クノ権利アルモノトス

第二旅客及貨物運送ノ為日本国汽船ノ航路ヲ

左記ノ場所ニ迄擴張スヘシ

一楊子江上流湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル

二上海ヨリ吳淞江及運河ヲ入テ蘇州杭州ニ至ル

日清両國ニ於テ新章程ヲ要定スル迄前記航路ニ關シ適用シ得ヘキ限リ外國船舶清國内地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スヘシ

第三日本國臣民ハ清國内地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ又其ノ輸入シタル貨品ヲ清國内地ヘ運送スルニハ右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル為メ何等ノ稅金取立金ヲモ納ムルコトナク一時倉庫ヲ借入ルノ權利ヲ有スヘシ

第四日本國臣民ハ清國各開市場開港場ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ヘク又同人輸入稅ヲ拂フヲ條件トシテ自由ニ各種ノ器械類ヲ清國ヘ輸入スルコトヲ得ヘシ

清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ内國運送稅及地稅賦課金取立金ト關シ又清國及地ニ於ケル倉入上ノ優益ニ關シ日本國臣民ハ清國ヘ輸入シタル商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ且同一ノ特典免除ヲ享有スヘキモノトス

此等ノ譲与ニ關シ更ニ章程ノ想定スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ本條ニ規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載スヘキモノトス

第七條

現ニ清國領内ニ在ル日本國軍隊ノ撤回ハ本約批准

交換後三箇月内ニ於テ之ヲ行ヒ但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フヘキモノトス

第八條

清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スヘキ擔保トシテ日本國軍隊ハ一時山東有威海衛ノ占領スルコトヲ承諾ス而シテ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ初回次回ノ拂ヒヲ了リ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル時ニ當リテ清國政府ニ於テ右賠償金ノ殊額ノ利ニ對シ充分適當ナル取極ヲ立テ清國海關稅ヲ以テ抵當ト爲スコトヲ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊ノ前記ノ場處ヨリ撤回スヘシ若又之ニ關シ充分適當ナル取極立タサル場合ニハ該賠償金ノ最終回拂ヒヲ了リタル時ニ非サレハ撤回セサルヘシ

通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ非サレハ

軍隊ノ撤回ヲ行ハサルモノト承知スヘシ

第九條

本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ有ル所ノ俘虜ヲ還附スヘシ而シテ清國ハ日本國ヨリ斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若クハ刑セサルヘキコトヲ約ス

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若ハ犯罪者ト認メラレタルモノハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清國ハ又交戰中日本國軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サス又之ヲ爲サシメサルコトヲ約ス

第十條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スヘシ

第十一條

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ拠ラヘキモノトス

第八條

清國ハ本約規定ノ償金ニ施行スヘキ擔保トシテ日本國軍隊ノ一時山東省威海衛ニ駐屯スルコトヲ承諾スヘシ而シテ本約規定シタル償金ノ初回次回ノ拂ヒヲ了リタル時ニ當リテ清國ハ商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル時ニ當リテ右賠償金ノ殘額ニ對シテ充分適當ナル取極ヲ立テ清國海關稅ヲ以テ擔保スコトヲ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊ノ前記ノ場處ヨリ撤回スヘシ

若又之ニ關シ充分適當ナル取極立ノサル場合ニハ該賠償金ノ最終回ノ拂ヒヲ了リタル時ニ非サレハ撤回セサルヘシ

又ハ商航海條約批准交換ヲ了リタル後ニ非サレハ

軍隊ノ撤回ヲ行ハサルモノト承知スヘシ

第九條

本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ有ル所ノ俘虜ヲ還附スヘシ而シテ清國ハ日本國ヨリ斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若クハ刑セサルヘキコトヲ約ス

日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若クハ犯罪者ト認メラレタルモノハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清國ハ又交戰中日本國軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ為サス又之ヲ為サシメサルコトヲ約ス

第十條

本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スヘシ

第十一條

本約大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准

セラルヘク而シテ右批准ハ芝罘ニ於テ明治二十八年五月八日
即光緒二十一年四月十四日ニ交換セラルヘシ
右證據トシテ両帝國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノ
ナリ
明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日下關
ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權辦理大臣 内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文

大日本帝國全權辦理大臣 外務大臣從二位勲一等子爵陸奥宗光

大清帝國欽差全權大臣 太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使英國大臣 李經方

別紙

別約

第一條　本日調印シタル媾和條約第八條ノ規定ニ依リテ一時威海衛ヲ占領スヘキ日本國軍隊ハ一旅團ヲ超過セサルヘシ而シテ該條約批准交換ノ日ヨリ清國ハ毎年右一時占領ニ關スル費用ニ付一庫平銀五十萬兩ヲ支拂フヘシ

第二條　威海衛ニ於ケル一時占領地ハ劉公島及威海衛灣ノ全沿岸ヨリ日本里數五里ノ地ヲ以テ其ノ區域トスヘシ

右一時占領地ノ徑界線ヲ距ルコト日本里數五里ノ地内ニ在リテハ何レノ所タリトモ清國軍隊ノ之ニ近ツキ若ハ之ヲ占領スルコトヲ許サヽルヘシ

第三條　一時占領地ノ行政事務ハ仍ホ清國官

吏ノ管理ニ帰スルモノトス但シ清國官吏ハ常ニ
日本國占領軍司令官カ其ノ軍隊ノ健康安全紀
律ニ関シ又ハ之カ維持配置上ニ付必要ト認メ發
スル所ノ命令ニ服スヘキ義務アルモノトス
一時占領地内ニ於テ犯シタル一切ノ軍事上ノ罪科ハ
日本國軍務官ノ裁判管轄ニ属スルモノトス
此ノ別約ハ本日調印シタル媾和條約中ニ悉トク
記入シタルト同一ノ効力ヲ有スルモノトス
右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ之ニ記名調印
スルモノナリ
明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日
下關ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權理事官従二位勲一等伯爵伊藤博文

大日本帝國全權辯理大臣外務大臣従二位勲一等子爵陸奥宗光

大清帝國欽差全權大臣北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣李経方

議定書

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

議定書

大日本國皇帝陛下ノ政府及大清國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印シタル媾和條約中ノ意義ニ付將來誤解ヲ生スルコトヲ避ケント欲スル目的ヲ以テ雙方ノ全權大臣ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　本日調印セシ媾和條約ニ附スル所ノ英譯文ハ該條約ノ日本文及漢文本文ト同一ノ意義ヲ有スルモノタルコトヲ約ス

第二　若該條約ノ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ前記英譯文ニ依テ決裁スヘキコトヲ約ス

第三　左ニ記名スル所ノ全權大臣ハ本議定書ハ本日調印シタル媾和條約ト同時ニ各両帝國政

有ニ提供シ而シテ該條約批准セラルヽトキハ
本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ
批准ヲ要セスシテ亦兩帝國政府ノ可認セシモノ
ト見做スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月二十三日
下ノ關ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權辨理大臣内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文

大日本帝國全權辨理大臣外務大臣從二位勲一等子爵陸奥宗光

大清帝國欽差頭等全權大臣太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肇勇伯爵李鴻章

大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣李經方

追加休戰定約

追加休戦定約

下ニ記名スル大日本國皇帝陛下ノ全權辨理大臣内閣總理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文及全權辨理大臣外務大臣從二位勲一等子爵陸奥宗光及大清國皇帝陛下ノ欽差頭等全權大臣太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章欽差全權大臣二品頂戴前出使大臣李經方ハ媾和條約ヲ締結シタルノ人ヲ穏カニ訣條約ノ批准ヲ交換スルコトヲ得ル為メ左ノ條款ニ同意シ之ニ記名調印スルモノナリ

第一條

明治二十八年三月三十日即光緒二十一年三月五日ニ締結シタル休戦定約ハ本日より二十一日間延期スヘシ

第二條

本約ヲ以テ延期シタル休戦ハ雙方ヨリノ通知ヲ要セスシテ明治二十八年睦月八日即光緒二十一年四月十四日ノ夜半ニ於テ終了スヘシ然レトモ其夜ニ両帝國ノ一方ニ於テ講和條約ヲ否決スルトキハ別ニ豫告ヲ用ヰズ直チニ本約ハ終了シタルモノト為スヘシ

右證據トシテ両帝國全權大臣ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年四月十七日即光緒二十一年三月廿三日下ノ間ニ於テ二通ヲ作ル

大日本帝國全權辯理大臣從二位勲一等伯爵伊藤博文

大日本帝國全權辯理大臣外務大臣從二位勲一等子爵陸奥宗光

大清帝國欽差頭等全權大臣（太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肇勇侯）李鴻章

大清帝國欽差全權大臣三品頂戴前出使大臣李經方

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕親シク明治二十八年四月十七日下ノ関ニ於テ帝國全權辯理大臣大清帝國全權大臣ノ記名調印シタル媾和條約及別約ノ各條目ヲ閲覧點檢シタルニ善ク朕

ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約及
別約ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百五十五年明
治二十八年四月二十日廣島行在所ニ於テ親
カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣　副署

陸軍豫備徴員ニシテ清國及朝鮮國ト
ノ交渉事件ニ付徴集セラレタル者ニ
關スル勅令案
右謹テ上奏シ恭シク
聖裁ヲ仰キ候セテ樞密院ノ議ニ付セラ
レンコトヲ請フ
明治二十八年五月三十一日
内閣總理大臣伯爵伊藤博文